

## 朝日カルチャーセンター：野外の自然観察 志賀島

## 「プチ船旅で海鳥にも出会える」

数日前まで心配された天気は快晴となって絶好の観察会日和となりました。

集合は博多埠頭。スタッフ3名を含め総勢19名は9時40分発の渡船で志賀島へ。

途中博多湾の防波堤に向かうカワウの大群が見られましたが、カモメの間は北へ旅立ったのか殆ど見られませんでした。志賀島港で迎えてくれたのは北上してきたばかりのツバメたちでした。



今日のコースは港から参道を志賀海神社階段前へ。そこから川沿いに遡って神社の通用口を通過して境内に入り樹木観察。その後火災塚を経由して展望台へ向かうというものです。

歩きだすと早速野草観察が始まり、ウマゴヤシの渦巻き状の種子やマンテマのおしゃれな花の形に早やヒートアップ。しかし16名もの参加者で、説明を聞けない人もいるので、説明した植物には名札を着けて、もう一人が名札を見て説明しました。

川沿いの道に入ると春の野草が妍を競っていてシャク、ムラサキケマン、ツクシケマン、セントウソウなどを次々と観察、ヤマアイは藍染に必要なインディゴ成分は含んでいない事などを説明しました。又、偶々並んで生えていたマムシグサとムサシアブミをじっくり品定め、花の付き方の違いを確認したり、性転換の不思議に感心頻りでした。

境内に進むと、イヌマキやバクチノキの大木がお出迎え。ムクロジの立派な木もあり、昔は種子が羽根つきの羽に使ったとの説明。残念ながら下見の際に満開だったオガタマノキは、すっかり花が散っていました。



気を取り直して、再び川沿いの道へ。コンロンソウはまだ蕾が出るか出ないかでしたが、直射日光が入らないのでオニヤブソテツ、イワヒトデ、クリハラン、イシカグマ、タチシノブといったシダ類のオンパレード。しかし地味なので関心はいまひとつ？

火災塚分岐からはちょっとした登りで、途中まだ花のついているヤブツバキ、冬芽の目立つタブノキ、新芽の美しいシロダモ、枯れた葉が目立つマテバシイ（ナラ枯れか）などを観察していきました。そんななか盛り上がったのはコショウ科のフウトウカズラの実。微かにピリッとする感覚にすっかりハマっていました。

ひとしきり展望台から360度のパノラマを楽しんでから、満開のヤマザクラを見ながら昼食をとりました。帰りは来た道を戻りましたが、下り始めたところでメハジキの根生葉を観察。幼苗の間は花時とは全く違う姿に暫し見入っていましたが、気が付くと周りにワラビの芽が！ここから一部の方は山菜採りのモードになり、シャクなどと共にお持ち帰り。

港に戻って志賀島センターで海産物のお土産を買ったところで解散となりました。

スタッフ：溝口 静間（記 静間）